

産業機械のアルファードesign

中国市場を本格開拓



産業機械メーカーのアルファードesign(東御市、千葉昇社長)は中国市場の本格開拓に乗り出す。3月までに大連市と香港に現地法人を設立し、発光ダイオード(LED)関連器具の製造自動化装置や特殊な電子部品の実装装置の販売を拡大する。現在、同社は上海の事務所を中国向け販売の窓口としているが、現地法人を立ち上げ、受注や販売体制を強化する。

大連と香港に現法 LED向け販売拡大

大連市に設立予定の現地法人は、LED照明器具の組み立てをはじめ、バックライトなど様々なアルファードesign本社で研修を受ける中国人社員(写真奥)

LED関連器具の製造工程を自動化する装置の標準機的设计、販売などを担う。装置の生産は現地企業に委託するが、装置の最終調整は現地法人が手掛ける。本社で研修を積んだ中国人などを本社から3~4人派遣する。中国では今後、LED関連市場の拡大が見込まれるが、製造工程の自動化は遅れているという。製造装置のオーダーメイド供給で成長してきた自社のノウハウを生かせるかと判断した。

特殊な電子部品を基板に取り付ける実装装置事業では、深圳の現地メーカーと組んで、日本から取り寄せた部品を使って

標準機のノックダウン生産を始める。6月をメドに中国向けの販売を開始する。現地のニーズを収集、販売につなげるために、深圳と地理的に近い

技術の医療従事者に紹介 信大病院で展示会

セイコーエプソンやHOKIなどの企業が医療機器開発に向けて信大と設立した「信州メディカル産業振興会」は、14日から3日間、会員企業の技術を医療従事者に紹介する展示会を開く。医療現場の声をくみ取り、医療機器開発につなげてもらう狙い。同振興会のこうした取り組みは初めて。

補助人工心臓を春にも発売することで注目を集めるミズス・サンメデイカルHD(諏訪市)の山崎俊一社長による講演も開く。14~16日まで、信州大

香港に現地法人を設立する予定だ。アルファードesignは国内の半導体メーカーなどの要望に応じて産業機械をオーダーメイドする

事業を専門としてきたが、企業の設備投資意欲の低迷を受けて標準機の開発も強化している。海外展開は標準機事業拡大の一環。海外での売上高

は現在、全体の約1割にすぎないが、2年後には約5割にまで引き上げる目標だ。同社は2011年6月期で約30億円の売上高を見込んでいる。

期は3億6900万円の赤字)だった。看板向けの高級機種や、ノベルティーの印刷に使われる産業用の低価格機種の販売が好調だった。昨年度は市場開拓が思うように進まなかった布地印刷向けプリンターについても販売拡大が進んだ。

11年3月期の連結最終損益は1億6800万円の黒字(前期は5億2300万円の赤字)を見込む。

ミマキエンジ黒字600万円

4~12月最終、販売堅調で

産業用プリンターのミマキエンジニアリングが9日発表した2010年4~12月期の連結最終損益は6100万円の黒字(前年同期は3億9000万円の赤字)だった。

国内外の市場で販売が堅調に推移したのが寄与した。売上高は前年同期比12%増となる192億円。営業損益は6億2800万円の黒字(前年同期は3億6900万円の赤字)だった。看板向けの高級機種や、ノベルティーの印刷に使われる産業用の低価格機種の販売が好調だった。昨年度は市場開拓が思うように進まなかった布地印刷向けプリンターについても販売拡大が進んだ。

11年3月期の連結最終損益は1億6800万円の黒字(前期は5億2300万円の赤字)を見込む。

CTS純利益
予想下方修正
今期、1億890万円に
建設会社向け機器レンタルのシーティーエス(CTS)は9日、2011年3月期の連結純利益が10年3月期比15%減